

課題番号8

基本方針：Ⅳ		課題名：農地マネジメントの推進	
対象：農地の出し手農家、受け手農家		計画期間：H30～R2	
		事務所名：南部農林振興事務所	
普及指導事項	活動内容	活動成果（計画当初→R2年度末）	
①農地中間管理事業の推進	説明会 パンフレットの配布 マネジメントチーム会議	マッチング面積	50.1ha → 86.1ha
②水稲に代わる高収益作物の推進	新規品目の検索	有望品目の栽培取組面積	172.8a → 200a
③農地活用モデルの推進	土地利用型野菜の機械化推進	機械化モデル実践	50a → 80a

総合評価(コメント)

A:6名

- さらに大胆にテスト作物を入れてみたらいかがでしょうか（何か日本初のもの）。
- 遊休農地の解消や担い手づくり、集落営農組織への支援などの確におこなわれており期待します。
- 高収益作物や省力化機械の導入により地域農業発展の気運を高めることで、担い手の育成・確保につながり農地マネジメントの推進にも期待できる。
- 地元寄り添った良い活動をされていると思う。
- 農業従事者が高収益作物への転換を評価していること、農業法人で取り組んだ機械の省力化により、効率的な農業へ転換できることなど理解できました。今後も農地の有効活用を進めてください。
- 「儲かる農業」には大規模化や後継者といったハードルもあるが、高齢者や女性、兼業農家でも、比較的小規模な設備投資でも着実な収益が上がる作物を提示することの意義は大きいと感じた。

普及指導計画への反映状況等

- ”農地のマッチング実績が減少傾向にある”件については、集落営農をうまく集落に定着させることによって耕作放棄地の解消、担い手への農地の集積、集落の活性化、農家所得の向上が見込まれることから、R3年度からの3年間では2集落の組織化を目標に設定し、マッチング面積の拡大を目指す。
- 高収益作物の推進については、新規作物は引き続き検索を行い3年間で10品目の導入を目標に設定し、展示圃を設置していく。また、適性が認められた品目については、面積拡大を図りつつ生産技術の改善など反収向上にも注力するとともに、組織化されていない集落での組織化支援として共同作業による生産の提案に活用していく。